

セラミックス岡山

CERAMICS OKAYAMA

2012.3

OKAYAMA ■■■■
 CERAMICS ■■■■
 CENTER ■■■■

岡山セラミックスセンター

CONTENTS

平櫛敬資氏を偲ぶ	1
寄稿	2
最近感じたこと	
設置機器紹介	3
熱定数測定装置	
耐火物工学基礎講座	4
SiO ₂ (その2)	
研究紹介	6
「アルミナ-シリカ系高温材料の焼結」	
「酸化物-非酸化物系複合材料の 高温反応～Al ₂ O ₃ -SiC系～」	
書籍紹介	8

平櫛敬資氏を偲ぶ

研究所所長 山口明良

平櫛敬資氏は、本年1月24日他界されました。同氏の御冥福を祈りつつ、同氏と親しかった一人として、同氏の一端を振り返り偲びたく存じます。

同氏は、当財団の二代目研究所長として、1994～2001年の7年間勤務され、財団の礎を築かれ、退職後も当財団の顧問およびセラミックスフォーラム委員として、なにかと発展に尽力されました。

振り返れば、1986年に、日本の耐火物技術協会は、中国の耐火物界との交流を始めようということで、5名からなる中国訪問団を結成しました。訪中団は2週間ほど中国を訪問し、上海では、宝山鉄鋼公司や上海第一耐火材料廠などを、洛陽では、洛陽耐火材料研究院などを訪れ、講演などによって交流を深めることができました。夜は、訪問の先方で円卓を囲んで多彩な中国料理とアルコール度の高い中国酒で懇親を深めたのですが、平櫛氏は、一緒に歌うぞと広言され、当時の中国にはカラオケなど無かったのですが、二人で歌う羽目になりました。歌の下手な小生は固辞したのですが、“お前は口だけ動かしておけばよい”とのことで、「瀬戸の花嫁」など平櫛氏の大きな歌声が響き渡り、拍手喝采を浴びたものです。団員の5名は、同氏の人を引き付ける底知れぬ魅力によって、2～3年毎に“訪中団同窓会”と称して集い、永年に亘って親交を深めておりましたが、平櫛氏が他界され、寂しさが一際身に沁みております。

同氏は、耐火物の中でも鉄鋼炉用耐火物についての造詣は深く、耐火物技術協会から功績賞と功労賞、窯業協会からは技術賞などを受賞され、耐火物の発展に大きく貢献されました。

当財団の職員は、同氏を“耐火物の先生”としてのみならず、“心の支え”として受け止めておりました。職員一同、心より御冥福をお祈りしております。